

「 釧路湿原自然再生協議会 」

## 第 10 回 旧川復元小委員会

資 料

平成 2 0 年 3 月 1 7 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

# 釧路湿原自然再生協議会

## - 第 10 回 「旧川復元小委員会」 -

日時：平成 20 年 3 月 17 日（月） 13：30～15：30

場所：釧路市観光国際交流センター 研修室 1・2・3

### 議事次第

#### 1. 開 会

#### 2. 議 事

1) 平成 19 年度の実施状況

2) 平成 20 年度の実施予定

3) モニタリング計画

#### 4. その他

#### 5. 閉 会

釧路湿原自然再生協議会  
旧川復元小委員会 委員名簿

計：34名

個人(13名)

(敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
1	内島 邦秀	北見工業大学 工学部 元教授
2	大山 仁美	環境カウンセラー(事業者部門)
3	桂川 雅信	北海道教育大学札幌校 非常勤講師 環境カウンセラー(市民部門)
4	神田 房行	北海道教育大学 釧路校 教授
5	櫻井 一隆	
6	清水 康行	北海道大学大学院 工学研究科 教授
7	杉山 伸一	環境カウンセラー(市民部門)
8	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
9	早川 博	北見工業大学 土木開発工学科
10	針生 勤	釧路市博物館 館長補佐
11	日野 貴	
12	松本 文雄	
13	三好 英雄	(株)不二木材 代表取締役

団体(13名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路市漁業協同組合	代表理事組合長 濱 隆司
2	釧路自然保護協会	会長 高山末吉
3	釧路湿原国立公園 ボランティアレンジャーの会	代表幹事 森 義紀
4	釧路シャケの会	会長 林田 恒夫
5	釧路水産用水汚濁防止対策協議会	会長 柳谷 法司
6	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
7	下久著呂地区農業用排水維持管理組合	組合長 八木澤 栄蔵
8	NPO法人タンチョウ保護研究グループ	代表 百瀬 邦和
9	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷲見 祐将
10	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長 金子 正美
11	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒沢 信道
12	北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤
13	南標茶地区排水路維持管理組合	組合長 佐久間 三男

オブザーバー(4団体)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	社団法人 十勝釧路管内 さけます増殖事業協会	会長 小嶋 孝
2	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛
3	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 植田 晃雄
4	標茶町商工会	会長 栗田 和行

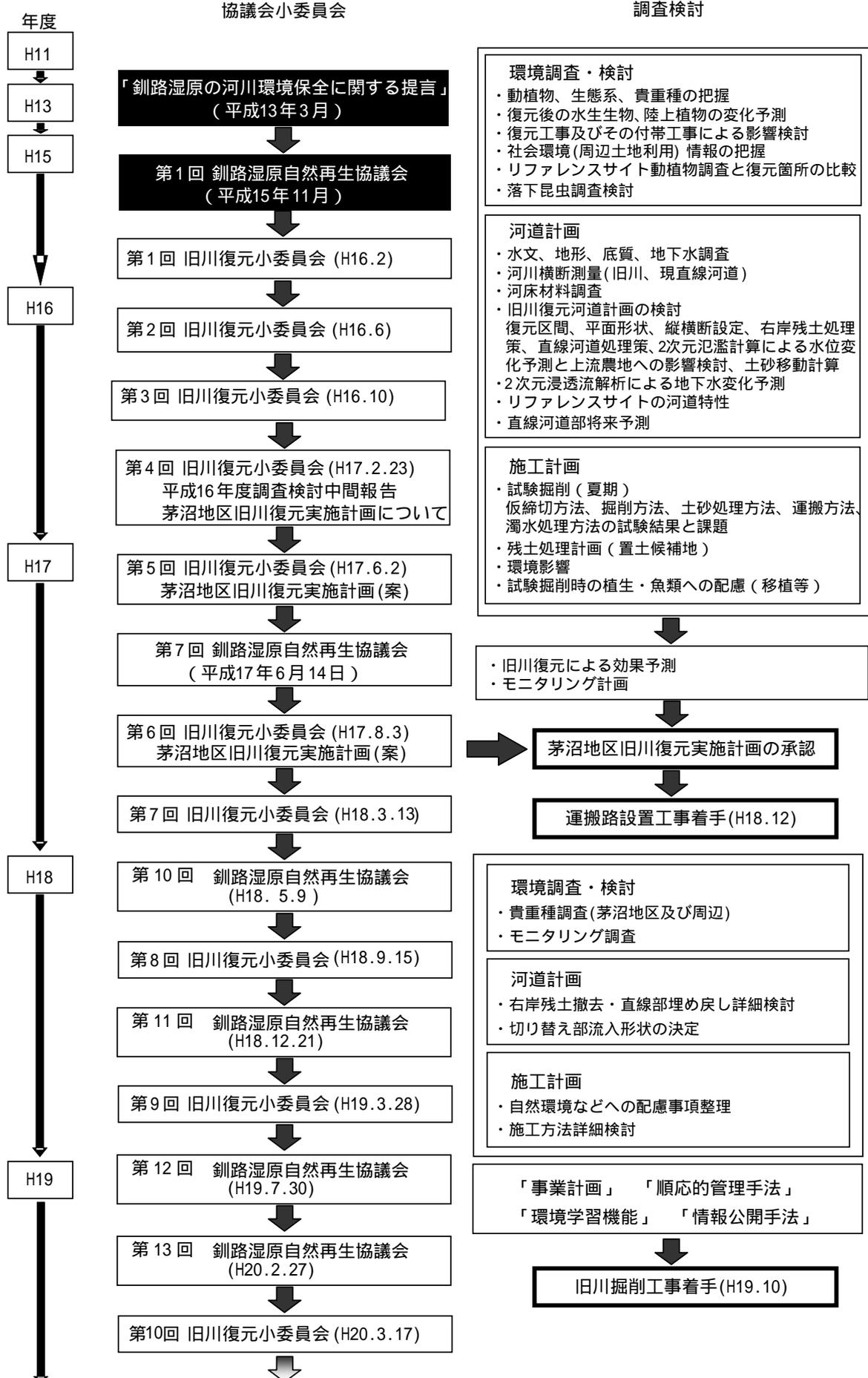
関係行政機関(4機関)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 上西 隆広
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 北沢 克巳
3	釧路町	町長 佐藤 廣高
4	標茶町	町長 池田 裕二

第3期(後期)新規構成員

# 旧川復元計画に関するこれまでの経緯と今後の計画



項目	発言概要	回答および今後の検討方針 (案)	備考
移植・移動予定について	<ul style="list-style-type: none"> <li>右岸残土撤去箇所によし原を再生しなければならないが、現在あるよしの面積は非常に少ないので、よしの面積を広げるような事をしなければならないと思う。よし移植に関しては、実験区を設けて、どの程度よしの根を薄く伸ばしても活着・再生するかという事を確かめながらやっていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご指摘の通り現在の右岸残土撤去箇所にあるよしは少ないが、右岸残土を撤去した区間から採取されたよしをプール状に掘り込んだ中に移植する事により、他の植生が繁茂しないよう湿潤状態を維持し、よし面積を増やす事を考えており、そのように実施しております。</li> <li>移植後の活着状況を確認しながら、更なる措置が必要な場合には、対処していきたい。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>どこか場所を見つけて予めよしを栽培しておけば、多くの根が使えるようになると思う。そうすれば5年の内によし原を完全に広げることが出来ると思うので、そういう研究も願います。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>裸地が沢山ありますから、そこを掘り込んで水を溜めるような実験は、今からでも出来ると思う。</li> </ul>		
茅沼地区の旧川復元について	<ul style="list-style-type: none"> <li>これだけの工事をするので(環境が)壊れる一面もあるが、長い目で見て蛇行したことによる利益という事を十分考えていかなければならないと思う。</li> <li>旧川が蛇行して流れていた時代には、オソベツ川は別に流れていた。旧川周辺全体が氾濫原とするならば、昔より流量が多くなるので、その辺を心配している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>茅沼地区旧川復元実施計画に則り事業を進める事により、直線化以前に近い氾濫環境を復元できます。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>釧路湿原全体を考え、オソベツ川を元のオソベツ川に戻すという計画も検討している。まだ具体的にはなっていないが、将来的にオソベツ川は合流させないという事になるんだろうと思う。現時点ではオソベツ川の流量も一緒に流れてきているが、もともとオソベツ川自体はそれほどの流量を持ってなく釧路川本流に比べれば全然少ない。</li> </ul>		

# 第10回 旧川復元小委員会

## 資料目次

	頁
1.平成19年度の実施状況	2
1-1.実施概要	3
1-2.主な配慮事項	5
1-3.旧川復元の状況	8
1-4.右岸残土撤去の状況(400m区間)	13
1-5.動植物の移植・移動の実施	15
2.平成20年度の実施予定	36
2-1.平成20年度の実施概要	37
2-2.動植物の調査移植・移動の予定	39
2-3.地域との協働	44
3.モニタリング計画	45
3-1.モニタリング計画の概要	46
3-2.魚類生息環境	49
3-3.湿原植生の再生	51
3-4.湿原景観の復元	54
3-5.下流域への土砂流出軽減	56